

# 大学の産学連携型PBL科目におけるルーブリック評価の開発 —学生の「振り返り」に着目して—

## Development of Rubric evaluation in university's industry-university collaborative PBL subjects -Focusing on student's "reflection"-

今西正和

Masakazu IMANISHI

法政大学大学院キャリアデザイン学研究所

Hosei University Graduate School of Career Studies

Email: masaima2@ybb.ne.jp

あらまし：本稿では、産学連携型PBL科目を実施している大学の教員への聞き取り調査によって、振り返りに着目したルーブリックを開発した。そして、その過程において、教員が考える「学生の良い振り返り」を明らかにした。そして、開発したルーブリックを使って、授業評価を行った。

キーワード：リフレクション、ルーブリック、グループワーク評価

### 1. 問題と目的

近年、大学教育において地域や企業と連携をし、体験を通じて学ぶ教育方法の重要性が高まっている。これらの教育方法は、学生の学習意欲の向上や、目的意識を持った自立的な学習者の育成につながる（河井・木村 2013）という点で大学教育に導入する意義が大きい。高橋ら（2015）は、学生の学習意欲の向上について、授業外学修時間や学生の意識と行動の変化をアンケート調査によって明らかにしている。しかし、目的意識を持った自立的な学習者の育成につながったかどうかを検証しているとは言えない。そこで、本稿では、1年次前期の正課の授業で企業と連携して実施しているPBL科目（以下、産学連携型PBL科目）を調査対象として、学生の振り返りに着目したルーブリックを開発し、目的意識を持った自立的な学習者の育成につながっているかどうかの検証を行う。

### 2. 調査対象のカリキュラムについて

調査対象の産学連携型PBL科目は、「自分から動く自立的・主体的な力を養うこと」を授業目標に掲げている。そのカリキュラムは、図表1の通りである。学生が5～7人でチームを組み、前半と後半で二つの企業から出される課題に取り組む。一つの企業から提示される課題に、6週間（6コマ）で取り組み、最終回では課題解決策を、チーム毎に企業にプレゼンテーションする。また、二つめの企業でチーム変えをして、自分の力を自覚するために複数の役割を経験させている。最終プレゼンテーション後には振り返りの時間を十分に取る。常に自分の考えを言語化・意識化させ、チーム内で共有することによって、学びをより深めることを狙っている。15コマ目の授業では、学部のシラバスを説明し、この授業で取り組んだような課題解決力を身に付けるためには、どのような科目を履修すればよいか、実践

力を補強する知識を学べる科目はどの科目であるかを伝えて、2年次以降の履修イメージを持たせるようにしている。

図表1 カリキュラム

【授業目標】自分から動く自立的・主体的な力を養うこと

	コマ	企業参加	内容
	1		マインドセット・ビルディング*
企業事例A	2	○	企業Aからの課題提示
	3		グループ活動（情報収集）
	4	○	中間発表（企業への一次提案）
	5		グループ活動（議論）
	6		グループ活動（準備）
	7	○	プレゼンテーションと講評（企業A）
	8		前半の振り返り・チーム再編
企業事例B	9	○	企業Bからの課題提示
	10		グループ活動（情報収集）
	11	○	企業への一次提案
	12		グループ活動（議論）
	13		グループ活動（準備）
	14	○	プレゼンテーションと講評（企業B）
	15		全体の振り返り

### 3. 調査方法および結果

1年次前期の正課の授業で、産学連携型PBL科目を実施している首都圏の私立A大学の教員に、非構造化面接（インタビュー）1時間半程度を3回行った。ルーブリックの作成は手間がかかることから、調査協力者の負担軽減を図るため、次のような手順で進めた。1回目は、授業の目的、到達目標、振り返りの内容と方法について、ヒアリングと進め方の打ち合わせを行った。その後、学生の振り返りレポ

ートのデータ（※個人情報情報を消去，整理番号と回答データのみ）を提供していただき，筆者の方で整理・分析を行った。2回目は，学生の振り返りレポート（図表2）30件のデータ分析を参考にしながら，教員から「学生の良い振り返り」のヒアリングを行った。そして，ヒアリングで書き起こしたテキストデータを参考にして，ルーブリック（案）を作成した。3回目は，作成したルーブリック（案）をもとに，評価観点と評価基準を中心に教員からインタビューを行った。

このようなプロセスによって，「学生の良い振り返り」と「そうでない振り返り」を評価するルーブリック（図表3）を開発した。なお，ルーブリックの作成は，スティーブンスとレビ（2014）を参考にした。

作成したルーブリックから，振り返りレポートを見て，授業での学びについて抽象的概念化ができていないか，その学びを今後の学生生活に生かそうと考えているかを評価していることがわかる。つまり，目的意識を持った自立的な学習者の育成につながっているかどうかは，学生が経験学習サイクルを回すことができているかがポイントとなる。

今年度の授業について，開発したルーブリックで授業を評価すると，授業での学びについて，「具体的な状況や体験を書いて，そこから他の場面でも応用できる教訓を明確に言語化できている」学生は6人，「抽象化した学びを，新しい具体的な状況に適用しようとしている」学生は5人，「適用する場面が，大学内だけでなくそれ以外にも広がっており，かつ，

具体的な状況が書けている」学生は1人であった。図表4は，3つの評価観点でレベル3と評価された学生のレポートである。

#### 4. 今後に向けての課題

教員，SA等がどのような関わり方をすることが，学生の「経験を学びに変換すること」に有効なのか，を明らかにしていきたい。

なお，開発した振り返りルーブリックは，能動的な学習の評価ツールとして，他の授業での活用も示唆される。具体的には，地域の課題に取り組むPBLでの活用やインターンシップの振り返りの授業等での活用が考えられる。それ以外の授業においても，グループ活動における振り返りの支援ツールとして使うことが考えられる。

#### 参考文献

- (1)ダネル・スティーブンス，アントニア・レビ（2014），『大学教員のためのルーブリック評価入門』玉川大学出版部
- (2)河井亨，木村充（2013），「サービス・ラーニングにおけるリフレクションとラーニング・ブリッジングの役割：立命館大学「地域活性化ボランティア」調査を通じて」『日本教育工学会論文誌』36（4），pp.419-428.
- (3)高橋勇二，井上英史，平山 恭子（2015），「応用生命科学分野における「産学協同 PBL 講座」初年次教育実施の試み」『東京薬科大学研究紀要第18号』，pp.43-49.
- (4)山川肖美（2004）「経験学習－D・A・コルブの理論をめぐって」『生涯学習理論を学ぶ人のために』世界思想社，2004年，pp.141-169.

図表2 振り返りレポート

- Q1. この授業で学んだことは何ですか？  
Q2. それは、あなたにとってどのような意味があるのですか？  
Q3. この授業で学んだことを、今後、どのように生かしたいですか？

図表3 振り返りルーブリック

【定義】学生の授業での学び（振り返りレポートに書かれている内容）を評価するルーブリック

評価観点	レベル3	レベル2	レベル1
①授業での学びについて，抽象的概念化ができているかどうか。（教訓を引き出せているか）	授業での学びについて，具体的な状況や体験を書いて，そこから他の場面でも応用できる教訓を明確に言語化できている。【6】	授業での学びについて，具体的な状況や体験を書かずに，抽象化している。他の場面では応用が効かない個別性の高い教訓に留まっている。【22】	授業での学びについて，具体的な状況や体験が書けていない。感想，思い出しレベルの記述である。【2】
②抽象的概念化した学びを，新しい状況に適用しようとしているかどうか。	抽象化した学びを，新しい具体的な状況に適用しようとしている。【5】	抽象化した学びを新しい状況に適用しようとしているが，その状況が具体的でない。【21】	抽象化した学びを新しい状況に適用しようと考えていない。【4】
③新しい状況に適用しようと考えている範囲の広さと内容が具体的かどうか	適用する場面が，大学内だけでなくそれ以外にも広がっており，かつ，具体的な状況が書けている。【1】	適用する場面が，大学内だけでなくそれ以外にも広がっているが，具体的な状況は書けていない。【13】	適用する場面は，大学内のみである。【16】

※【】内の数字は，学生の振り返りレポートをレベル別に集計した評価した結果である。

図表4 学生のレポート（3つの評価観点がすべてレベル3）

- A1：班の活動において，協調性が人間関係にどれだけ重要かを学びました。  
A2：協調性に関して，周りの人を理解することで視野が広がり，新しい価値観を知ることができると思います。  
A3：グループ活動で生かしていきたいです。とりあえずやってみようという前向きな気持ちをグループの人達にも影響を与える取り組み方をしていきたいです。また，授業内だけでなくアルバイトの人間関係においても，この授業で学んだ協調性を生かして，良い人間関係を築いていきたいです。